

中国レポート(第一回)

1、総括編

二月二十三日～二十九日の日程で、中国の木材のメッカ、大連市及び煙台市に木材製品及び加工品、原木の実情等を視察する為に多少強行な日程で出張してきました。

私は過去に、アメリカ東海岸・アメリカ西海岸・インドネシア・マレーシア(半島)・マレーシア(ボルネオ島)と色々木材の視察の為に出かけました。今回中国は初めですが、到着して直ぐ凄く違和感を持ちました。

其れは飛行機から最初に目にした景色でした。緑が全く見えないのです。確かに冬場なので緑が年中豊かなインドネシア等とは違うことは当たり前ですが、飛行機から下りてから再確認しましたところ、本当に緑がありませんでした。そして表土が大変薄いことも感じました。

昨今新聞紙上で取り上げられている『食べ物』の事で我々日本人の食の大きな部分を中国に頼っていることに凄く危機感を覚えました。

その理由は緑が少ないのは、元々から少ない土壌だったのでしょう。しかしその緑が少ない所が、凄いスピードで山ごと剥ぎ取られ、街が出来ているのです。そして人の多いことにはびっくりしました。

中国政府が発表している人口は約13億人と我々は聞いていますが、現地の日本人駐在人に聞くと少なくとも15億人～16億人はいますよとの事でした。その人口を支える為には中国政府の取りえる手段はインフラ(住まい作り)等の整備、つまり経済発展が至上命題なのでしょう。それ以外に国を纏め上げる手段はないのだと思います。



しかしこのスピードで街が発展したら、たちまち中国も食料不足に陥る可能性が大きいと現地の日本語の話せる中国人の営業マンは仰っていました。その方は中国の大学を卒業し日系の木材商社に勤めている方です。

そしてもう一つ大事な事も仰っていました。それは、水が大変不足しています。産業用、飲料用含めて不足しています。だから私の宿泊しているローカルのホテルはミネラルウォーター代を取ります。**【日本人向けの高い宿泊料を取るホテルは、最初からミネラルウォーター代はオンされていました。】**

又余談の話しですが私がホテルにてお茶を飲む場合、沸騰させて暫くたって冷えてから飲みなさい。そうすれば悪い物質が取り除かれ安心して飲めますよと中国の方にアドバイスして頂きました。

上の写真は飛行機からの写真です。

下はホテルからの写真です。

面白い話を一つ紹介します。ホテルのタオルで靴を拭きました。ドロドロの靴なので、タオルは真っ黒になりました。400元(約600円)別途請求されました。

2、中国製品をアテにはしてはいけない。少しの値段の違いなら国内製造の商品を使うべきです。

中国製の冷凍食品の問題で日本国内は混乱していますが、この問題の発覚は当然だと思います。と言うのは管理が日本ほど徹底されていないし、又それだけの認識が彼らにはないのです。私は食品の視察に出かけた訳では有りませんから、食品問題と木材の品質を同レベルで考えてはいけないかもしれませんが、多分同じ条件で考えても差し障りがないと思います。

まずお見せしたいのが、大手『大東建託』デベロッパーが商社（伊藤忠）を通じて発注しているキッチンのカウンターです。部材に使われている材はタイ産のラバーウッド（ゴム材）です。この商品は完成品で日本に輸出されていますが、加工が非常に下手です。一～二年は、剥ぎが切れる事は少ないと思いますが、三余年経てば日本の気密な部屋では、剥ぎが切れる可能性が大きいと、伊藤忠の人間では無い、工場を案内してくれた日本人のバイヤーが言っていました。↓左が塗装済み・右が塗装前



次にお見せする材は左がドイツのオーク原木です。右がロシア産ナラ原木です。



素人の方でも少し勉強すれば、違いは解ります。ドイツ材は森林認証材です。ロシア材は森林認証材かどうか解りません。このシッパーは日本の大手建材メーカーから森林認証材のドイツオークのユニタイプ（縦継ぎのフローリング）の注文を受けて作っているのですが、その注文にロシア産ナラが混じっているのです。私は自分の目で確認してきました。

この建材メーカーは本年の四月以降森林認証材の素材のみしか使わない方針で日本国内の販売を仕掛けているのですが、それに対応が現地シッパーは出来ていないのです。日本国内でこの建材メーカーはISOも取得しているので、コンプライアンスの遵守も当然です。しかし現地シッパーの管理体制が十二分に出来ていないのです。次ぎのページで何故取れていないかをお見せします。

3、中国メーカーの管理体制



上の左の写真は前ページの中国シッパーの倉庫です。右は服部商店の倉庫です。中国シッパーの製材品は何も書いていません。ラベルも無ければ製材日の正確な日付も書いていません。服部商店は全木連主催のFIPC（木材表示推進協議会）に入会しているので、トレサビリティを実行し全ての材に製材日、及び樹種名、そして産地・仕入先（この二つは暗号です・企業秘密なので）を明記しています。

この違いは大事な事なのか、それともは大事ではないのか、エンドユーザーの消費者には解らないと思いますが、建築士さんには是非解って頂きたいと思います。そして是非伝えて欲しいと思います。

私は以前の服部新聞で、建築とは住まい作りであり、当たり前を当たり前にするだけだと思います。と書きましたが私は、材木屋として当たり前を当たり前に行っているだけです。服部商店は正規ルートで日本に輸入されたロシア産ナラ・タモの原木を製材しています。そして其れを産地表示ロシア産で販売しています。言うなれば当たり前の事を当たり前に行っているだけです。

ところで私はSNFフローリングと言う服部商店オリジナルのフローリングを製造販売しています。私が取り引きしているシッパーのヤードの写真を見て下さい。下記の左の写真のラベルにあらゆる情報が明記されています。下記の右の写真で木材の管理が素晴らしい事が解って頂けると思います。



このページの中国シッパーの写真と服部商店の写真、及びアメリカシッパーの写真を見て頂ければ、本当の真実とはこう言う物だご理解していただけると思います。安い中国製・建築資材には何らかの問題は有ります。ましてこれだけ地球温暖化と騒がれている現在では、本当の事が大事だと思います。

私は一材木屋です。それ以外の事は解りません。しかしプロの材木屋として本当の事を伝えるのが仕事だと思っています。

私もこの間、自分の家のリフォームをしましたのであくまで施主サイドにいる人間です。違うとすればこの二年間服部新聞を書き建築士さん及びお得意先様に本当の事を伝える仕事をしただけです。

建築士さんは言うなれば施主様に適切にアドバイスし素晴らしい建築を手がけるのが仕事だと思います。その為には色々な情報が必要ですし、本当の事を知っていただく必要が有ると思います。

四号特例の廃止を考える（先月のアンケートのまとめ）

先月号で4号特例の廃止のアンケートをお願いいたしました。多数の方から色んなご意見を頂きました。ありがとうございます。色んなご意見の中から大変解り易く解説して頂いた資料をお披露目させていただきます。服部新聞に掲載をお許し頂いた空間舎様、貴重な資料提供ありがとうございます。

建築基準法第六条一項第四号とは、木造建築物で次のいずれにも適合するもの、階数2以下で延べ面積500㎡以下の建物、その他の構造については階数1で延べ200㎡以下の建物を言う

この4号建物を建築士が設計する場合は特例として、構造計算に係る確認審査を省略することが出来るが、現在、国土交通省に措いてこの特例を廃止する検討が進められている。

特に、小規模木造住宅の安全性の確保が急がれる背景には、不適切な設計による構造強度の不足であり、幾つもの構造設計偽装が発覚したことに起因している。

安全性の確保は良いとしても特例の廃止を考える時、幾つかの問題を整理、解決しなければ市場での大きな混乱が予想される。

近年、木造軸組み工法は工場でプレカットされた集成材の柱、梁、そして構造用合板、石膏ボード、接合ボード、接合金物、等で建築される生産システムが主流となり、それに伴う法の改正が、構造概念上の矛盾を解決出来ないまま今日に至っている。

結果、枠組み工法（2×4工法）に近くなり、日本の伝統的な軸組み工法の良さを否定し、切り捨てられる方向に有る。

今回の改訂で考えられる問題点。

- 1) 木造軸組み工法の構造概念の構築と設計工法の確立
- 2) 関係法規と各制度の整備
- 3) 設計・施工者（大工）への研修と徹底
- 4) 業界への経済的影響
- 5) 日本の木造建築文化の伝承と保存
- 6) ユーザー（施主）の経済的負担

6)のユーザー（施主）が、「安全」に多少の経済的負担と、設計から竣工までの期間が多少延びる事を理解したとしても、1)～5)については専門家の良識ある議論が求められている。

特に1)と5)は関係が深く、技術論だけで解決しないよう希望したい。

空間舎の見解は4号全てを見直し、木造軸組み工法を新工法（現在のプレカット工法）と伝統工法は別の構造と考え、各々を規定しない限り解決は無く、今後、この点を中心に、国土交通省、建築学会、各省庁、学識経験者等による十分な議論と検討を期待することになります。（別紙参照は国土交通省の最新の情報です。）

資料提供 **空間舎**

〒545-0005

大阪市阿倍野区三明町 2-11-28-202

TEL06-6629-0015

服部新聞は2006年4月25日号から初めて二年になります。皆様から励みのお手紙を頂く事が多くなって大変嬉しく思っています。これからも頑張って書いていきます。宜しく御願いたします。

なお中国レポートは三回に分けて報告したいと思っていますので、楽しみにしてください。

私はSNS（ソーシャルネットワーク）を運営しています。その中には、新聞でお披露目出来ない情報も発信しています。良ければ別紙アンケートを用意していますので宜しく御願いたします。

ソーシャルネットワークシステム（SNS）に参加しませんか

ソーシャルネットワークシステムと言っても、理解して頂ける方は極僅かしかいないと思います。（ソーシャルネットワークシステムを以下は略して SNS と言います。

新聞紙上でインターネットの特徴である匿名性の行き過ぎで、犯罪が多発しるのを最近よく見かけます。

そしてこれからメールマガジンさえも法的規制を受けようとしています。

言わばインターネット経由で、個人情報への一方的な情報の押し付けに待ったを掛けようとしているのです。

しかしこの SNS と言うのは従来のインターネットのやり方とは全く違うのです。

この SNS はインターネット網を利用したコミュニティーの双方向通信ツールです。

例えば、『 会員の中でこの情報は、誰にでも見せても良いが、これ以上の事は利害関係が有り、特定の仲間しか見せられない。 』と言う事が出来るシステムです。

更に、安心できる環境の一つとして『 信頼できる知人を紹介し、又、別の言い方をすれば、紹介がないと入れないサイト 』という事です。

この SNS と直接関係しない話ですが、私は建築士さんのご苦勞を、この間お聞きすることが有りました。

それは分譲の住宅建築の設計で、大手デベロッパーから大幅な値引き『1200万掛かる設計料を800万にしろ・・・それでする建築士がいるぞ・・・』を要求された事を聞いた時でした。

建築士さんも木材業者並みに虐められているのを知ったとき、何か情報を共有出来る手段が無いものかと思っていました。

従来のインターネットのホームページですと、特定の人や、信頼できる方のみには情報を表示すると言うことはインターネットの性質上非常に難しく、又、出来たとしても困難を有する操作が必要で有り、なかなか思うようには行かなかったのが現実でした。

ところがこの SNS では、簡単な操作でインターネット上の隔離された安全な部屋に入り、例えば日記形式で現場の様子をお施主様だけ見たい場合、見れるが、一方利害関係者には見せたくない場合、簡単に制限を掛けられるのがこのシステムの特徴です。

その上、書いた日記に対する意見や問合せも頂ける、まさに双方向の通信手段となるのです。

以上は建築士さん向けの話ですが、服部商店の木材を買っていただいて、それを加工して一般消費者の皆様へ販売している方も、利用出来ます。その方法は、服部商店の扱っている木材を、言わば自分の在庫として見せて仕事を取っていただけないかと、考えているからです。

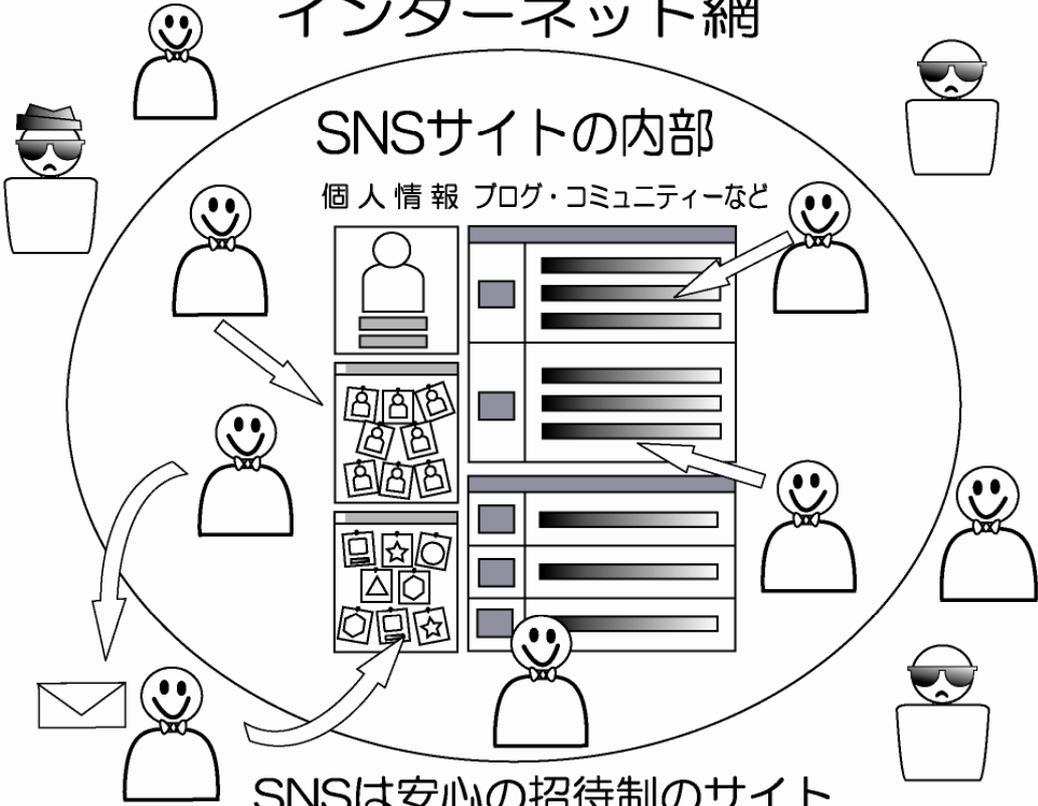
それがこの SNS では可能なのです。それを解かりやすく説明しているのが下に有ります。

服部SNSの仕組み

インターネット網

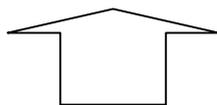
SNSサイトの内部

個人情報 ブログ・コミュニティーなど



SNSは安心の招待制のサイト

FAX番号072-422-8577



アンケート1、SNS（ソーシャルネットワークシステム）に対して興味がある。

はい

いいえ

アンケート2、1の質問ではいの方に入会しても良い

はい

いいえ

お名前	
連絡先ご住所	
お電話番号	
メールアドレス	

（株）服部商店
服部雅章
2008.3.25